

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年3月29日(火)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年3月29日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【J8エリアタンクの雨樋配管の破損について】 当直員が3月16日に発生地震後のパトロール(3月17日)において、J8エリアタンクの雨樋配管の破損を確認。雨水用の雨樋であるが、雨水は堰内に留まるため問題なし。 地震の影響と推定。 今後、タンクエリア全域の再パトロールを実施し、エリア全体状況を把握した上で、修理対応の検討を予定。	GⅢ	3月17日
2	【H6(Ⅱ)エリア雨水カバー支柱の転倒について】 当直員が3月16日に発生地震後のパトロール(3月17日)において、H6(Ⅱ)エリア雨水カバー支柱の転倒を確認。 雨水用のカバー支柱であるが、他の支柱で雨水カバーを支えていることから現時点では問題なし。 地震の影響と推定。 今後、タンクエリア全域の再パトロールを実施し、エリア全体状況を把握した上で、修理対応の検討を予定。	GⅢ	3月17日
3	【サブドレンNo. 23ピットサンプリング採水時の油分確認について】 協力企業作業員が、サブドレンNo. 23ピットのサンプリング採水時に、油分があることを確認。 油分分析の結果、9.8mg/Lであったことから排水基準値の5.0mg/Lを超過していることを確認。 No. 23および連通するNo. 24～27ピットの稼働を停止。 今後、サブドレンNo. 23、24ピットの油回収、No. 25～27ピットの採水による分析を行い、原因調査および対応の検討を予定。	GⅢ	3月21日
4	【サブドレンNo. 24ピットサンプリング採水時の油分確認について】 協力企業作業員が、サブドレンNo. 24ピットのサンプリング採水時に、油分があることを確認。 油分分析の結果、0.6mg/Lであったことから排水基準値の5.0mg/Lを超過していないことを確認したが、排水基準値の5.0mg/Lを超過しているサブドレンNo. 23ピットと連通していることから、同様に連通しているNo. 25～27ピットも合わせて停止。 今後、サブドレンNo. 23、24ピットの油回収、25～27ピットの採水による分析を行い、原因調査および対応の検討を予定。	GⅢ	3月23日
5	【多核種除去設備のろ過水供給ポンプ(B)吐出圧力計の計器元弁のシート漏えいについて】 協力企業作業員が、多核種除去設備のろ過水供給ポンプ(B)吐出圧力計の点検において、計器元弁の開操作後に計器の取り外しを行ったところ、取り外し箇所から、ろ過水のにじみを確認。 原因は、計器元弁のシート漏えいと推定。 当該計器元弁は、通常全開状態で使用のため、系統運転に支障なし。 今後、計器元弁の点検を予定。	GⅢ	3月23日
6	【4号機原子炉カバー建屋内の作業台車動作不良について】 当社社員が、地震後の詳細点検時に、4号機原子炉カバー建屋内の作業台車の制御盤において、常時電源が供給されている走行モータに電源供給されていないことを確認。 当該作業台車については、至近で使用する予定はないため、作業に影響なし。 調査の結果、制御盤内のリレーの動作不良が原因と判明したため、2022年4月から開始の年次点検にて当該リレーの取替を行う予定。	GⅢ	3月24日
7	【増設多核種除去設備のクレーン横行装置に設置のリミットスイッチの故障について】 当直員が、増設多核種除去設備のクレーンの起動ができないことを確認。 調査の結果、当該クレーン横行装置に設置のリミットスイッチの故障であることが判明。 原因は、経年劣化により当該リミットスイッチのローラ可動部が戻りきらないままストッププレートに当たり、故障したものと推定。 当該リミットスイッチは、HIC(高性能容器)吊上げ時に、巻き上げ装置の位置検出用として使用するものであり、クレーンの安全装置に関わるリミットスイッチではない。 その後、当該クレーンの動作確認を行い、HIC吊上げ作業には問題なく対応可能であることを確認済み。 なお、当該クレーンは地震後の動作確認により健全性を確認していることから、3月16日に発生地震による影響ではない。 今後、当該リミットスイッチの交換を実施予定。	GⅢ	3月25日